

特定非営利活動法人

医学統計研究会

Biostatistical Research Association

Newsletter No.5 (110)

2013.5.29

立夏も過ぎ、風薫るすばらしい季節を迎えました。会員の皆様には長期のゴールデン・ウィークも終わり、いろいろと懸案業務をこなされていることと拝察いたします。間もなく梅雨の季節がやって参ります。体調に留意して一歩ずつ前進したいものです。

1 定例研究会「東京」2013-5-7が以下の次第で開催されました[敬称略]。

日時：2013年5月7日(火) 13:30~17:00

会場：生涯学習センター ばるーん：204学習室

研究報告：

川端ゆみこ：生体リズムの評価について

五十川直樹：臨床評価における Bayes 流接近法(II)

丸尾和司：臨床試験における歪んだ分布に基づくシミュレーション

藤澤正樹・後藤昌司：単回帰診断

後藤昌司：医家と統計家との対話

連休の後とあって、遊学疲れの雰囲気もありましたが、日本計算機統計学会・第27回大会 [2013.5.16-17] の発表に備える研究報告など、大変に啓発的でした。課題検討会は「安ん座」で開かれ、6名の方々が参加されました。次回の予定は以下の通りです。

日時：2013年6月7日(金) 13:30~17:00

会場：生涯学習センター ばるーん

2 前号でもお知らせしましたが、特定主題シンポジウム2013「臨床評価における用量反応関係と推測」が以下の次第で開催されます。シンポジウムの主旨も含めてホームページに掲示しています。念の為に重複しますが、その趣旨などを以下に提示いたします。

シンポジウム趣旨：

有効性および安全性の用量反応関係の評価は、医薬品の開発過程のなかで避けては通れない要件の一つです。従来、どちらかと言えば、プラセボとの対比較（多重比較）や対比といった検定に基づく評価が行われてきましたが、近年、モデルに基づく用量反応関係の検討も注目されつつあります。そこで、本シンポジウムでは、PK-PDモデルを含むモデルによる用量反応関係の評価に焦点をあてるとともに、最近の実践的な話題も議論する予定です。

本シンポジウムは、5題の講演からなります。最初のご講演で用量反応関係の評価に関する基本的な考え方をご紹介します。続いて、モデリング・シミュレーションを用いたPK-PDモデル活用とモデルに基づく用量反応関係の評価の実例についてご講演いただきます。その後のご講演で、複数の地域で実施される用量反応試験に参加する際の課題を提起していただき、最後に統計ソフトウ

ェア R を用いた用量反応関係の評価の事例をご紹介いただく予定です。
多くの方々のご参加を期待いたします。

3 (1) 平成25年度通常総会を以下の次第で開催いたします。

日時：2013年6月15日(土) 10:00～11:00

会場：大阪府豊中市千里公民館・第3会議室

議題：第1号議案：平成24年度事業報告。

第2号議案：平成24年度収支報告〔財産目録・貸借対照表を含む〕。

第3号議案：平成25年度事業計画。

第4号議案：平成25年度収支予算。

第5号議案：その他〔改正NPO法について〕。

(2) 平成25年度第1回理事会を以下の次第で開催いたします。

日時：2013年6月15日(土) 11:00～12:00

会場：大阪府豊中市千里公民館・第3会議室

議題：第1号議案：平成25年度事業の進捗。

第2号議案：「改正NPO法」について。

第3号議案：常務理事・理事の役割分担。

第4号議案：会員動向〔平成25年6月15日現在〕。

第5号議案：今後の対応。

(3) 定例会〔大阪〕2013-6-15を以下の次第で開催いたします。

日時：2013年6月15日(土) 14:00～17:00

会場：大阪府豊中市千里公民館 第3会議室

研究報告：

座長：松原義弘

- ・吉川隆範：G分布の背後にある変換の構造（仮）
- ・大山秀輔：交互作用の構造と推測（仮）
- ・中村将俊：ランダム・フォーレストの数理的構造（仮）
- ・尾崎寿昭：形状不変モデルの推測（仮）
- ・池田敏広：用量反応関係を「個」の情報で探る（仮）
- ・後藤昌司：最近の話題

4 「日本医師会生涯教育制度適合学術講演会」〔第2回講座〕が以下の次第で開催されます〔敬称略〕。

日時：2013年6月21日（金）19:00～20:30

会場：大分県医師会会館：6階会議室

講師：河合統介・丸尾和司

講義概要：①統計的基礎：医学・医療での代表的な分布とその要約統計量

②統計的推測：推定と検定

③医学・医療における統計的方法の適用上の留意点

5 連携活動の話題を以下にご報告いたします。

(1) 日本計算機統計学会・第27回大会が以下の次第で開催されました〔敬称略〕。

日時：2013年5月16-17日

会場：弘前大学 創立 50 周年記念会館

実行組織委員長：杉本知之

実行（組織委員）：五十川直樹・河合統介・後藤昌司・富田 誠・丸尾和司

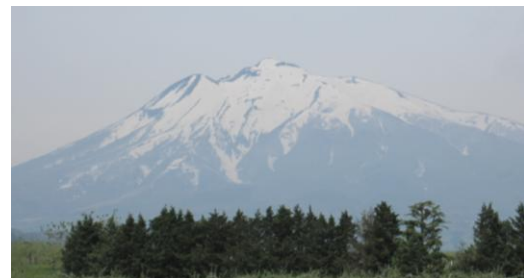
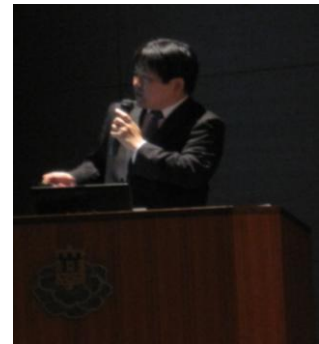
委員長をはじめとして、全実行委員が本研究会の会員であったこともあり、非常に多くの仲間の方々が参加されました。とくに、二つの特別講演が印象に残りました。

特別講演 [1]：「奇跡のりんご」不可能への挑戦 木村秋則(株木村興農社)

特別講演 [2]：リンゴなど農産物内部品質の非破壊的予測について

張 樹槐(弘前大学 農学生命科学部)

特別講演 [1] では、6 月 8 日（土）に封切りの映画「奇跡のリンゴ」の主人公となった木村秋則さんが無農薬によるリンゴの開発の実際を紹介され、感動と感銘を与えられました。



—日本計算機統計学会でのひとこま—

(2) 「夏季セミナー大分 2013」が以下の次第で開催されます [敬称略].

日時：2013年7月6日(土) 10:00~17:00

会場：大分大学

組織者：越智義道・志賀 功・衛藤俊寿

現在、プログラムを作成中です。奮って、ご参加いただくと幸いです。

(3) 恒例の「サマーフォーラム 2013」が下記の次第で開催されます [敬称略].

日時・会場：2013年7月20日(土)

第1部：9:30~13:00：共同研究集会.

第2部：15:00~17:00：ボーリング大会.

第3部：18:00~21:00：懇親会

なお、第1部は日本計算機統計学会スタディー・グループ「統計科学におけるシミュレーションの過程」[代表：伊藤雅憲]との共催です。奮ってご参加いただくと幸いです。

第2部および第3部については「定員」があります。ご参加については早目に事務局へご連絡いただくと幸いです。

(4) 恒例の「臨床評価におけるデータマネジメントの過程」が以下の次第で開催されます。

日時：2013年8月1-2日

会場：未定 [東京]

定員：20名 [会員：¥40,000，非会員：¥50,000]

多数の方々のご参加をお待ちしています。

編集後記①：弘前で開催された日本計算機統計学会・第27回大会は久しぶりに活気のある印象に残る立派な催しであった。成功の第1要件は、何といても実行委員長の杉本知之さんの情熱と細やかな心遣いにある。とくに、遊学の両面についての心配りがすばらしかった。折しも、弘前城公園内の枝垂れ桜は満開に近い状態で散るのを止め、岩木山の勇姿を後に控えて、素晴らしい光景を呈していた。また弘前市内で行き交う女性の目が何とも優しく、町の風情を落ち着いたものにしていて。学会では、木村秋則さんの特別講演と野口聡一さんの研究報告が強く印象に残った。統計家の常備している手段が「観察、思考、実験」の方法論であることに留意すると、木村さんが実行したことは、正に、統計家の接近の仕方であった。統計学の始祖であるR.A.Fisherがロザムステッド農事試験場で作物の圃場実験を介して統計的方法の理論を築いていったことに、ある種の共通の基盤がある。やはり統計家も実践を通して苦難の道を歩まないと本物にはなれないのかもしれない。野口さんの発表された内容は、宇宙からのメッセージで日記を通して、その心理的变化を追究することであった。野口さんの意図は、理解できたが、数理的接近の仕方が、その趣旨に合致していない印象を受けた。少なくとも接近の目標は「検証」ではなく「探索」であったはずであり、「検証」を目標にするのであれば、「コンスピレンス・アナリシス」は不向きである。・・名和田 潜

編集後記②：本研究会の有志の方々を中心にして『日本心血管インターベンション治療学会誌』に「医学統計入門」を連載中です。現在、6回を数えています。別刷りなど必要な方は送料を勘案してご連絡いただくとお願いいたします。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局

Newsletter 編集：

後藤昌司・松原義弘・坂本 亘・富金原 悟・河合統介・藤澤正樹・杉本知之・大門貴志・伊藤雅憲・吉川隆範

連絡先：医学統計研究会 事務局 [吉田 舞・後藤 孚]

〒560-0085 豊中市上新田2丁目22-10-A411号

Tel & Fax：06-6835-8790 / e-mail：bra_goto@ybb.ne.jp / URL：<http://www.bra.or.jp>

本ニューズレターの転載は全文・部分を問わず禁止させていただきます。